

モグラたたきの対処療法のむなしさ

複合危機をもたらす均衡価格の上昇

コロナ禍とウクライナ情勢などを背景に、エネルギー、メタル(金属)、食料の国際価格が高騰した。資源の大半を輸入に依存する日本では、円安の進行も加わって輸入価格の騰勢が止まらない。岸田政権は、ガソリンの値上りを抑えるために石油元売りに補助金を支給し、電力需給のひっ迫に対しては、「ポイント」を付与することで家庭に節電を要請した。8月15日に首相官邸で開かれた「物価・賃金・生活総合対策本部」では、政府が輸入小麦を製粉会社に売り渡す価格を、10月以降も現行水準に据え置くことを決めた。その後、円安の影響で加速する物価高に対応するため、9月9日に「同対策本部」を開き、追加対策を取りまとめる考えを示した。しかし、こうしたモグラたたきの対処療法には虚しさを覚える。

価格上昇はあくまでも「現象」であり、「現象」には必ず「原因」がある。その「原因」に正面から対峙せずして根本対策はあり得ない。そもそも対処療法は反作用を伴う。小麦の場合、政府は、国際相場を基に買い付け価格に、国産小麦振興などに充てる経費(マークアップ)を上乗せし、4月と10月の年2回、製粉会社に販売する。しかし、輸入差益を圧縮するかたちで価格を抑えれば、国産小麦振興を削ぐ恐れがある。食料自給率向上ひいては食料安全保障にも逆行する。

民間エコノミストの草分けとされる高橋亀吉は、『実践経済学』(東洋経済)の中で、1970年代のハイパーインフレについて、一時の「変態」か、構造的「変化」を見極めることが重要だとした。もし「変化」であるならこれを抑えてはいけないうし、戻してもいけない。変化した方向に展開するかたちでの対策を打つべきであると説いた。この点、岸田政権の物価対策、農業対策は現在の価格上昇が、一時的な「変態」であり、取りあえず問題に蓋をすればいずれ収まると安易にみているフシがある。

現在は均衡価格の変化

シカゴ穀物市場では6月以降、一先ず騰勢一服となっているものの、地政学リスクに加えて、世界的な異常気象(熱波、干ばつ、洪水など)による食糧危機第2波の懸念はむしろ強まっている。今回のような世界同時多発かつ複合的な要因による食糧危機は、1972~73年にかけて初めて見られた。いずれも均衡価格

の変化(水準訂正)が指摘できる。

「人口爆発」「所得爆発(生活水準の向上)」という2つの爆発により、食糧の飼料化が進み、供給量が追いつけない状況が背景にあった。1960年代後半には20%台にあった世界の穀物在庫率は、1972～73年にかけては15%台まで低下した。

こうしたなか、1972～73年の食糧危機は3つの要因によりさらに複雑化・長期化の様相を呈してきた。

1つは、1972年に旧ソ連、中国、インド、オーストラリアなどが異常気象に見舞われ、食糧生産が大きく減少したことだ。特に、大凶作に陥った旧ソ連政府は、小麦を中心に2,400万トン近い穀物を隠密裏に主に米国から買い付けた。これは当時の穀物貿易量1億トンの25%に匹敵することから、「大穀物強盗(The Great Grain Robbery)」と呼ばれ、投機マネーの買いを誘った。それまで1ブッシェル＝1ドル台で推移していたシカゴ小麦相場は、74年には4ドル前後に跳ね上がった。

2つめは、エルニーニョ(太平洋赤道域の中部、東部における海面水温の上昇)によりペルー沖のアンチョビー(カタクチイワシ)が不漁となり、肥料や飼料にする魚粉生産が減少したことだ。米国では大豆への代替需要が急増したことで、政府は内需を優先させるために大豆の輸出を2カ月間禁止(エンバゴ)した。これにより大豆相場は2ドル台後半から一時13ドルに急騰し、トウモロコシも1ドル近辺から3ドルを突破した。以後、穀物相場は以前の安い値段に戻ることは無かった。均衡価格の変化が生じたのだ。日本は、大豆禁輸の教訓からブラジルのセラード開発に踏み切った。

3つ目は、1973年の第1次オイルショックである。原油価格は1バレル＝2ドル前後から11ドル台へと急騰した。これにより古くから家畜飼料として使われてきたレンダリングと呼ばれる肉骨粉(MBM：ミートボーンミール)の製造方法が変わった。レンダリング工場では、燃料価格が高騰したことから、コスト削減のために煮沸温度を下げ、時間も短縮する方法が普及した。しかし、この簡便化された処理方法によって製造されたMBMがイギリスの家畜飼料に添加されたことで、1980年代に入りイギリスで狂牛病(牛海綿状脳症)にかかった牛を大量発生させることになった。以後、畜産向けのタンパク源として大豆の需要が急拡大することになる。

世界同時多発的な食糧危機＝穀物の均衡価格の変化の構図は、今も変わりがない。

(株式会社 資源・食糧問題研究所 代表 柴田明夫・しばた あきお)